現代中国語における“给”
――文法化からモダリティー化へ――

村　松　恵　子

目　次

0．はじめに
1．本稿における言語資料
2．前置詞の“给”＝N1＋给＋N2＋V（＋N3）
　2.1　従来の研究
　2.2　本稿の見解
　2.3　言語資料による分析
3．副詞の“给”＝N1＋给＋V（＋N2）
　3.1　従来の分類
　3.2　言語資料による分析
4．“给”の連用＝N1＋给＋N2＋给＋V
　4.1「“给”の連用」とは何か
　4.2　言語資料による分析
5．結果補語の“给”＝N1＋V给＋N2（＋N3）
　5.1　従来の分類
　5.2　言語資料による分析
6．おわりに
注
参考文献

0．はじめに

“给”の語源について，池田1962は〈給〉（gěi）が「過與」の縮合に由来すると述べ，さらに平山2000は「軽読変化」の観点からこの論を裏付けている[(1)]。「軽読」とは「使用頻度の著しく高い語が弱く或いは粗雑に発音される結果，その語形が崩れて生ずる個別の音韻変化」（平山2000，p. 66）である。池田1962と平山2000によれば，「手渡す」という意味の動詞「過」に，介詞化した動詞「與」が付いて複合語となったのが「過與」であり，〈給〉（gěi）は「過與」の縮合形からの「軽読変化」である。そして「「給」は「恐らく当て字であるというのは一般に認められた通念」（平山2000，p. 58）である。

池田1962と平山2000は〈給〉（gěi）に関する音韻学的成果であるが，これらは意味論的あるいは統語論的成果へとつながるものでもある。つまりこの二論文から，“给”は単に「与える」ということを意味しているのではなく，与え手から受け手に対して「直接手渡して与える」ということを意味しているということがわかる。従って，例えば“小王给小李一本书。”は「王さんが李さんに本をあたえる」（王→李）というように，その表す意味は動作行為の方向が王さんから李さんへの方向に限定され，決して「王さんが李さんから本をもらう」（王←李）という意味にはならない。

このような原義を持つ“给”は，従来の研究においては，例えば前置詞として用いられた場合には「受領者」や「受益者」をマークするとか，“为”や“替”と同義であるとか，受け身を表す“被”と類似の機能を果たすとか，あるいは“把”と類似の機能を果たすとされてきた。

その他，“给”は前置詞以外にも，副詞[2]や結果補語としても用いられ，また動詞の“给”と前置詞の“给”が連用される場合もあり，さらには“被”，“把”，“让／叫”と連用される場合もある。それらを具体的に示すと以下のような形式にまとめることができる。

ア．前置詞の“给”＝N1＋给＋N2＋V（＋N3）
イ．副詞の“给”＝N1＋给＋V（＋N2）
ウ．“给”の連用＝ N1＋给＋N2＋给＋V
エ．結果補語の“给”＝N1＋V 给＋N2（＋N3）
オ．“被”と連用される“给”
　　＝N1＋被＋N2＋给＋V
カ．“把”と連用される“给”
　　＝(i)　N1＋把＋N2＋给＋N3＋V
　　＝(ii)　N1＋把＋N2＋给＋V
　　＝(iii)　N1＋把＋N2＋V 给＋N3
キ．“让／叫”と連用される“给”
　　＝(i)　让／叫＋N1＋给＋N2＋V（＋N3）
　　(ii)　让／叫＋N1＋给＋V（＋N2）

本稿においては，“给”が動詞以外で使用される場合について，従来の研究成果を踏まえながら，上記のア～エについて考察していく。そしてそれによって「直接手渡して与える」という原義を持つ動詞の“给”が，現在の‘普通话’においてどのように文法化して使用されているのかを分析し，さらにモダリティー化されていることを明らかにしていく。なお，オ～キについては，本稿においてア～エを明らかにした上で，別稿において論ずることとする。

1．本稿における言語資料

本稿においては言語資料として主に，中国語母語話者2名による自由会話約10時間分の録音資料を用いる。この資料は中国語母語話者20名にインフォーマントとして言語資料作成に協力してもらい，1987年から1996年の間に録音したものを忠実にテープ起し，さらにそれを文字化したものである。インフォーマントの略歴については以下の通りであり，いずれも録音当時，中国あるいは日本において，大学を卒業しているか，または大学院修士課程あるいは博士課程に在籍している，高等教育の学歴を持つ中国語母語話者であり，‘普通话’において問題ないと判断できる。インフォーマントの性別，出生年，出身地については以下の通りである。

インフォーマント	性別	出生年	出身地
1．(A)	男	1954年	遼寧省
2．(B)	男	1963年	山西省
3．(C)	男	1946年	遼寧省
4．(D)	男	1957年	天津市
5．(E)	男	1957年	北京市
6．(F)	男	1957年	大連市
7．(G)	男	1967年	上海市
8．(H)	男	1955年	湖南省
9．(I)	男	1966年	山西省
10．(J)	女	1963年	北京市
11．(K)	女	1966年	黒龍江省
12．(L)	女	1956年	天津市
13．(M)	女	1962年	吉林省
14．(N)	女	1967年	吉林省
15．(O)	女	1963年	北京市
16．(P)	女	1968年	北京市
17．(Q)	女	1957年	湖南省
18．(R)	女	1963年	河北省
19．(S)	女	1967年	北京市
20．(T)	女	1968年	北京市

なお，本文中の例(5)から例(16)の会話例の中の記号は以下の通りである。

「｜」＝明確な音声的停頓を示す
「：」＝言いよどみを示す
（这个）と（那个）＝指示詞ではなく，話のつぎほとして使用されているもの
｛　｝の発言＝聞き手のあいづち

2．前置詞の“给”＝N1＋给＋N2＋V（＋N3）

2.1　従来の研究

本来動詞であった“给”は文法化して前置詞として用いられ，その結果，現代中国語において前置詞の“给”は①「受領者」や「受益者」をマークする，②“为”や“替”と同義である，③受け身文の“被”と類似の機能を果たす，④処置文の“把”と類似の機能を果たす，というのが，従来一般に認められた見解である。

特に③と④はN1とN2における動作行為の方向が逆の意味関係を表しており，これに関する前置詞の“给”の機能拡張の経緯を意味論的に考察した先行研究は多数みられる。これらの先行研究については木村2012において詳述されており，それぞれの論の問題点に関しても詳細に検討されている。また木村2012においては，これらの先行研究を踏まえた上で独自の見解が示され，この両機能の拡張はそれぞれ異なった経緯によるものであると述べられている。しかし木村2012も他の先行研究と同様に，“给”が文法化した結果，“被”と“把”に類似した両機能を持つようになったという見解に立脚した分析であることに違いはない。

2.2　本稿の見解

木村2012では，“给”が動作者をマークする，“被”と類似の用法である例文として下記の例⑴が示され，また“给”が受動者をマークする，“把”と類似の用法である例文として下記の例⑵が，それぞれ示されている。

例⑴　狗 给 小红 撵走了。
［犬はシアオホンに追い払われた。］

例⑵　小红 给 狗 撵走了。
［シアオホンは犬を追い払った。］

しかし，例⑴の“给”が動作者マーク（“给”≒“被”）の意味に限定され，例⑵の“给”が受動者マーク（“给”≒“把”）の意味に限定される根拠について，木村2012では言及されていない。

そこで筆者は，例⑴と例⑵の他に下記の例⑶と例⑷を作例し，例⑴から例⑷の4つの例文について，その動作行為の方向が「N1←N2」（“给”≒“被”）であるのか，「N1→N2」（“给”≒“把”）であるのかについてインフォーマントチェックを行った（調査実施は2013年2月）。

例⑶　小红 给 小王 撵走了。

例⑷　小红 给 小王 打了。

筆者は今回のインフォーマントチェックを行う前には，例⑴は，N1が“狗”で，N2が人間であり，Vが“撵走”であることから，その動作行為の方向は「N1←N2」（“给”≒“被”）と判断されると予測した。また例⑵についてはN1が人間で，N2が“狗”であり，Vが“撵走”であることから，その動作行為の方向は「N1→N2」（“给”≒“把”）と判断されると予測した。この予測にもとづき，N1とN2が同じ範疇の名詞である例⑶を作例し，さらに例⑷ではN1とN2を同じ範疇の名詞にし，Vについては例⑶よりも動作の単純な他動詞性の高い動詞を用いて作例した。

なお，今回この調査に協力してもらった11名のインフォーマント（aからk）は，出身地（下記の表⑴に明記）はそれぞれさまざまであるが，いずれも中国あるいは日本において，大学院修士課程あるいは博士課程を修了している，高等教育修了の学歴を持つ30代から40代の中国語母語話者であり，‘普通话’において問題ないと判断できる。

インフォーマントチェックの結果は下記の表⑴の通りである。

筆者は当初，インフォーマントｆの結果と同じものを予測したが，今回の調査の結果は，その予想を大きく外れるものであった。

調査の結果内容をまとめたものが以下の①から⑧である。

① インフォーマントａ，ｂ，ｃの３名は，例⑴から例⑷のすべてにおいて，その動作行為の方向は「N1←N2」（“给”≒“被”）と「N1→N2」（“给”≒“把”）の両方向の解釈が可能であると判断している。

② インフォーマントｄは，例⑴，⑵，⑶においては動作行為の方向は「N1←N2」（“给”≒“被”）と「N1→N2」（“给”≒“把”）の両方向の解釈が可能であると判断しているが，例⑷においては「N1←N2」（“给”≒“被”）のみ可能と判断している。

③ インフォーマントｅは，例⑵，⑶，⑷においては動作行為の方向は「N1←N2」（“给”≒“被”）と「N1→N2」（“给”≒“把”）の両方向の解釈が可能であると判断しているが，例⑴においては「N1←N2」（“给”≒“被”）のみ可能としている。

④ インフォーマントｆは，例⑶と⑷においては動作行為の方向は「N1←N2」（“给”≒“被”）と「N1→N2」（“给”≒“把”）の両方向の解釈が可能であると判断しているが，例⑴においては「N1←N2」（“给”≒“被”）のみ成立すると判断し，例⑵においては「N1→N2」（“给”≒“把”）のみ成立すると判断している。

⑤ インフォーマントｇは，例⑴と例⑷においては，その動作行為の方向は「N1←N2」（“给”≒“被”）は成立すると判断し

表⑴

	例⑴		例⑵		例⑶		例⑷	
	狗		小		小		小	
	给		红		红		红	
	小		给		给		给	
	红		狗		小		小	
	撵		撵		王		王	
	走		走		撵		打	
	了。		了。		走		了。	
					了。			
	≒被	≒把	≒被	≒把	≒被	≒把	≒被	≒把
a（福建省30代女性）	○	○	○	○	○	○	○	○
b（北京市40代女性）	○	○	○	○	○	○	○	○
c（吉林省40代女性）	○	○	○	○	○	○	○	○
d（遼寧省30代女性）	○	○	○	○	○	○	○	×
e（上海市40代女性）	○	×	○	○	○	○	○	○
f（遼寧省30代女性）	○	×	×	○	○	○	○	○
g（河南省40代女性）	○	△	△	○	△	○	○	△
h（遼寧省30代男性）	○	△	○	△	○	△	○	△
i（北京市40代女性）	○	○	○	×	○	×	○	×
j（上海市40代女性）	○	×	○	×	○	×	○	×
k（浙江省40代女性）	○	×	○	×	○	×	○	×

ているが，「N1→N2」（“给”≒“把”）については判断に迷っている。例(2)と例(3)においては全くその逆で，「N1→N2」（“给”≒“把”）は成立すると判断しているが，「N1←N2」（“给”≒“被”）については判断に迷っている。

⑥ インフォーマントｈはすべて「N1←N2」（“给”≒“被”）は成立すると判断しているが，「N1→N2」（“给”≒“把”）については判断に迷っている。

⑦ インフォーマントｉは例(1)は「N1←N2」（“给”≒“被”）と「N1→N2」（“给”≒“把”）の両方向の解釈が可能と判断しているが，その他３例についてはすべて「N1←N2」（“给”≒“被”）のみ成立すると判断している。

⑧ インフォーマントｊとｋはすべて「N1←N2」（“给”≒“被”）の方向のみ成立し，「N1→N2」（“给”≒“把”）の方向は成立しないと判断している。

これらの結果から明らかになったことは，例(1)から例(4)のそれぞれの文は，一文においては二義性を否定できないということであり，その使用には非常に個人差があるということである。例えばインフォーマントａ，ｂ，ｃの３名は，例(1)から(4)のすべてについて，「N1←N2」（“给”≒“被”）と「N1→N2」（“给”≒“把”）の両方向が可能であると判断しているが，ｊとｋは例(1)から(4)をすべて「N1←N2」（“给”≒“被”）と判断し，「N1→N2」（“给”≒“把”）の方向を認めない。またｈとｉにおいてもその使用は「N1←N2」（“给”≒“被”）に大きく傾く傾向がみられる。

インフォーマントｊとｋの２名を除いた残りの９名については，それぞれの例文について動作行為の方向を，「N1→N2」（“给”≒“把”）と「N1←N2」（“给”≒“被”）の両方向の解釈が可能と判断したり，あるいは一方だけと判断したりしているわけであるが，重要なのは，この９名が何に依ってその動作行為の方向を判断しているのかということである。それは言うまでもなく，N1 と N2 と V の持つ特徴，あるいは文脈や談話の展開の支えに依って判断している。今回の調査の際，筆者からは一切文脈や談話の展開を提示していないので，インフォーマントは各自でそれぞれ文脈や談話の展開を想像して，例(1)から例(4)の成立，不成立を判断している。

今回の調査の際，インフォーマントの中には，中国語母語話者同士の会話の中で「N1＋给＋N2＋V（＋N3）」の形式が使用されると，その動作行為の方向が「N1→N2」なのか「N1←N2」なのかが不明瞭で判断に迷い，聞き直す場合があると述べた者がいた。このことは，文脈や談話の展開の支えがあってもなお，この形式はその動作行為の方向が明確ではないということを意味している。

では，N1 と N2 と V の持つ特徴あるいは文脈や談話の展開の支えに依っても，“给”の方向が不確定な場合があるとはどういうことを意味しているのであろうか。

ここで“给”の方向の不確定性を考察するに当たり，“给”と同様に，二者間でのものの移動を表す動詞である“借”について見てみることにする。

“借”については倉石 1981（p. 115）で次のように述べられている。

「ただ「あの人に貸してやる」，「あの人から借りる」というときの中心になる動詞は全く同じで，「借」の字だけしか作っていません。それは貸借は同じ動作だからです。中国語では動詞は動作だけ表せばいいのですから。その動作がどっちからどっちに行ったということは動詞の負担することではない。」

倉石 1981 が述べている通り，中国語におい

て二者間での貸借関係を表現する動詞は“借”しかなく，そのため“小王借小李一本书。”は，「王さんが李さんに本を貸す」と「王さんが李さんから本を借りる」の二通りの解釈が成立する。この場合，動作行為の方向が「王→李」なのか「王←李」なのかは王さんと李さんの関係あるいは文脈や談話の展開に依って判断される。

また，“买”と“卖”についても，倉石 1981（p. 78）では次のように述べられている。

「動作について見ても，「売」と「買」とのようにすべて人と人との間で金を媒介として物を譲りわたす動作はすべて mai という音節で事が足りた。甲が金を出して乙から物を取るか，それとも逆に乙が金を出して甲から物を取るかということは捨てて，もっぱら「金を媒介として物を譲りわたす」という動作そのものだけを抽象してしまえば，mai だけで足りるわけである。後になってこれを一音節で区別したいというほど複雑になってから，同じ mai に声調の区別をつけたし，それを目で見て区別できるために一方は文字の頭に符号を加えるようになったのである。その関係は「受」と「授」とでも同様である。」

倉石 1981 で述べられている，二者間での物の移動に関するこれらの中国語の動詞の特性を“给”に当てはめて考察してみることにする。

“给”は動詞の場合には「直接手渡して与える」という，与え手から受け手に対する直接行為を意味しているため，その動作行為の方向は与え手から受け手への一方方向（A 給 B＝A→B）しか意味しない。しかし，表⑴からわかるように，“给”が文法化されて前置詞という機能語となって「N1＋给＋N2＋V（＋N3)」という形式で表現された場合に，その動作行為の方向が不確定であり，「N1→N2」と「N1←N2」の両方向に判断される場合があるということは，“给”は文法化されて前置詞という機能語となったことによってその文における述語動詞の副次的働きをすることとなり，その結果，動詞本来が持っていた「与える方向性」が欠落したと判断できる。そして「与える方向性」が欠落したため，二者間で何らかの授受関係があったことのみを意味する語として用いられるようになった，ということである。

本稿はその歴史的経緯を明らかにすることが目的ではないので，本稿ではその歴史的経緯に関しては言及しない。しかし，表⑴で示したインフォーマントチェックから，少なくとも現代中国語における前置詞の“给”は，従来一般に認められているような「N1←N2」（“给”≒“被”）と「N1→N2」（“给”≒“把”）の二方向の用法を獲得したと判断するのではなく，“给”という動詞本来が持っていた「与える方向性」が欠落し，それによって二者間で何らかの授受関係があったことのみを意味する機能語として用いられるようになった，と判断する方が妥当である。

以下において，1．に提示した本稿の言語資料をもとに，この見解の妥当性を証明していく。

2.3　言語資料による分析

下記の例⑸では，インフォーマントＬとＭが日本に留学に来た事情と日本での滞在延長について話し合っている。

例⑸

1L＝我们学校主要是，你想中专吧，派出来的人挺少的，第一个派我出来｜。我是刚到单位工作吧｜，〔M＝嗯〕工：分到单位之后半年吧，我没有教课｜。你那一开始不带课不教课的｜。〔M＝嗯〕啊｜。完了，刚教了半年吧，我就：结婚，就有小孩儿了｜。〔M＝哦〕问题是一有小孩儿，就不让我教课，让我歇着啦｜。〔M＝哦〕完了，生完小孩儿，我该上班了，就考（这个）出国留学考试，就<u>给考上了</u>①｜。〔M＝哦〕考上了，当时就：七

个月以后，将近一年以后，才能走呢。可是说，反正我肯定是走，就不给我排课了②。你就准备准备出国｜，｛M＝哦｝就没上课，就：就：就：到日本来了｜。｛M＝哦｝然后，三月底回国内哈，｛M＝哦｝四月初回国内｜，｛M＝嗯｝四月初：中途：中途也不给我排课③。到九月份给我排课④，才是新学期啊哈。到九月份刚给我排课吧⑤，没上一个月课｜，我：我又提出要求去日本留学｜。等于：我十一月份来到日本嘛｜，等于就没上｜，九月份就上一个月的课，十月份就开始不上课了｜。

2M ＝你那个时候就提出来要求留学，学校同意了？｜

3L ＝同意了，就是说要我……

4M ＝但是，你留学：你（这个）没念完的话，他应该给你延期呀⑥｜。

5L ＝他同意我出来两年呐。我又给学校写信⑦，重又给我延长半年⑧，延长到今年六月份，延长半年嘛｜。｛M＝噢｝我再延长｜，所以我不知道学校同意不。｛M＝但是你……｝因为我没给学校工作⑨，光拿钱了｜。

6M ＝但是，如果你就是考上什么了｜，考上什么了，他应该同意你延期。比如说，你考上博士生了｜，或者是念研究生，念到中途或者是｛L＝嗯｝他应该同意你念完｜。｛L＝是吗？｝一般的学校应该同意你念完｜。

7L ＝那你爱人现在上的是什么？｜

8M ＝他现在（那个）研究生还没有毕业呢｜。

9L ＝啊，硕士没毕业呢｜。他：他怎么延长了一年啊？｜

10M ＝他怎么呢，他第一年吧，是学校给他派来的⑩｜。｛L＝哦｝学校派来的（那个）说一年｜，期限是一年｜。｛L＝嗯嗯｝结果到期以后呢，他想在这边考研究生，｛L＝嗯｝他就给学校写申请⑪｜，｛L＝嗯｝学校同意了，同意他就在这边延长了。｛L＝嗯｝现在就考研究生了｜。半年以后吧，考上研究生了｜，｛L＝嗯｝就在这儿念就一直到现在｜。

11L ＝啊，那挺好的｜，那挺好｜。

12M ＝不过（那个）公费的，就是外交部的护照，能不能改成公安局的自费护照？｜好不好改？｜

13L ＝你说好改不？｜

14M ＝我听说能改｜，但是，就不知道怎么改｜。

15L ＝但是，得回国，我觉得｜。在日本改不了，我觉得｜。

16M ＝你就把那些手续来回邮｜，让（那个）家里人在国内给你办⑫不行吗？｜

17L ＝唉：不太清楚｜。给学校写信⑬，学校：我估计能：同意我（这个）硕士毕业，我估计是没有太大的问题｜。无论如何他得让我毕业，不能不让我，都已经念到这儿了｜，这儿还有半年就毕业了啊｜。（这个）我想是没有什么问题的。就是说：能不能同意我上博士，这是个问题。你一上博士，又得三年｜。

18M ＝但是吧，他已同意你延半年吧，你这护照又换了五年的吧｜，｛L＝啊，真的｝又换了五年的吧｜。

19L ＝啊，这公派护照是五年的护照，是吗？｜

20M ＝就是嘛！｜你已换成五年的吧｜。

21L ＝不。他们说的这护照一年一年地延长，上面签字，不是护照换｜。跟自费不一样｜。自费是五年｜。｛M＝是吗？｝公费他上面给你签字延长⑭｜，加你页儿上头｜。

1L＝私たちの学校は，中等専科学校（中国で中学を卒業してから進学する専門学校）はね，（外国に）派遣して出る人はとても少なくて，初めて私を派遣したの。私は就職したばかりの時，｛M＝うん｝就職して半年間，私は授業を担当していなかったの。就職して最初から授業を担当しなかった。

{M＝うん} 教え始めて半年してね，結婚して子どもができたの。{M＝へえ} 問題は子どもができたら，私に授業をさせず，私を休ませたの。{M＝へえ} それから子どもが生まれたら，私は出勤しなければならないから，それで留学試験を受けたら，受かっちゃったの①。{M＝へえ} 合格したら，当時はね7か月後，約1年後にやっと留学できたの。でもどっちにしても私はきっと留学するから，私に授業を持たせないことになったの②。出国の準備をして，{M＝うん} 授業はしなくて，それで日本に来たの。{M＝へえ} それから3月末に帰国して，{M＝へえ} 4月初めに帰国して，{M＝うん} 4月は学期の途中だから私に授業を持たせない③。9月になって私に授業を持たせた④の，9月が新学期だから。9月になって私に授業を持たせ⑤，1か月も授業をしないで，私はまた日本に留学することを要求したの。私は11月に日本に来たから，授業をしていないのと同じで，9月に1か月授業をして，10月には授業をしないことになったの。

2M＝そのとき留学を要求して，学校は同意したの？

3L＝同意したの。つまり……

4M＝でも，あなたが留学して学業が修了しなかった場合には，学校はあなたの延長を認めなければならないよね⑥

5L＝学校は私が2年間留学することに同意したの。私はまた学校に手紙を書いて⑦，さらに半年の延長してもらって⑧，今年の6月で，半年延長したの。{M＝へえ} 私はさらに延長したいから，だから学校が同意するかどうかわからない。{M＝でも……} なぜなら学校のために仕事をすることなしで⑨，ただお金をもらっているから。

6M＝でも，もしあなたが合格したなら，学校はあなたの延長に同意しなくちゃいけない。例えば，博士課程に合格したとか，修士をやるとか，学業の途中であっても {L＝うん} 学校はあなたが修了するまで研究することに同意しなくちゃいけない。{L＝そう？} 普通の学校はあなたが修了するまで研究を続けることに同意しなくちゃいけない。

7L＝ご主人は今何を勉強しているの？

8M＝彼は大学院生で，まだ卒業していないの。

9L＝ああ，修士をまだ卒業していない。彼はどうして1年延長したの？

10M＝彼はね，1年目は学校から派遣されて来たの⑩。{L＝へえ} 学校が1年派遣すると言ったの。期限は1年。{L＝うんうん} 期限がきたあと，彼はここで大学院を受験したいと思って，{L＝うん} 学校に申請を書いて⑪，{L＝うん} 学校は彼がここで延長することに同意したの。

{L＝うん} 今，大学院を受験することにしたの。半年後，大学院に合格したから，{L＝うん} ここで今までずっと勉強しているの。

11L＝ああ，それはいい，それはいい。

12M＝でも公費派遣の，つまり外交部のパスポートは公安局の私費のパスポートに変更できるの？簡単にできるの？

13L＝簡単に変更できると思う？

14M＝私は変更できると聞いたけど，でもどうやって変更するのか知らないの。

15L＝でも，帰国しなきゃいけないと思う。日本では変更できないと思う。

16M＝手続きを郵便でやりとりして，家族に国内で手続きしてもらう⑫というのはだめかしら？

17L＝よく知らない。学校に手紙を書いた⑬ら，学校は私が修士課程を修了すること

に同意すると思う。私は大きな問題は無いと思う。どうであろうと学校は私を卒業させなくてはいけないし，卒業させないわけにはいかない，もうすでにここまで勉強しているんだし，ここでさらに半年勉強すれば卒業なんだから。私は問題ないと思う。つまり私が博士課程に進学できるかどうか，これが問題なの。博士課程に進学すれば，また3年かかるから。

18M＝でも，学校があなたの半年延長に同意したら，あなたのパスポートはまた5年用に交換するでしょ？｛L＝ええ，そう｝また5年用に交換するでしょ。

19L＝ああ，公費派遣のパスポートは5年パスポートなの？

20M＝そうよ！　あなたは5年用に交換したでしょ。

21L＝いいえ。このパスポートは1年ごとの延長で，サインをして，パスポートは交換しないと言われた。私費とは違う。私費は5年だよ。｛M＝そう？｝公費はサインをして延長し⑭，パスポートのページに加えるの。

この会話の中では“给”が14箇所で用いられ，そのうちの下線部②から⑪と⑬，⑭の12箇所において前置詞の“给”（=N1＋给＋N2＋V（＋N3））の形式が用いられている。下線部①は「给＋V」の形式であるので3．において分析し，下線部⑫は「让＋N1＋给＋N2＋V」の形式であるので，本稿では分析の対象としない。

以下で，下線部②から⑪と⑬，⑭の12例について分析を進めていく。

この12例の“给”を従来の見解に従って整理すれば，それぞれ以下のような意味に分類されよう。

②から⑥と⑧，⑨　は「“给”≒“为”」

⑦，⑪，⑬　は「“给”＝動作行為の受領者をマークしている」

⑩は「“给”≒“把”」

⑭は「“给”≒“为”または“替”」

しかし，従来の見解に従ったこのような分類に，どれ程の意味があるのであろうか。以下では，例(5)の談話の展開に注目しながら，この12例の前置詞の“给”を考察していく。

例(5)においてインフォーマントLとMは，日本に留学に来た事情と日本での滞在延長について話し合っている。具体的には，1Lから6MまではLが日本に留学に来た事情について，また7Lから21LまではMの夫の日本での滞在延長について話し合われている。Lの日本留学については，LとLの所属先である中国の専門学校との関係がその実現のポイントであり，またMの夫の日本での滞在延長については，Mの夫とMの夫の所属先である中国の大学との関係がその実現のポイントである。つまりこの会話の中で前置詞の“给”（=N1＋给＋N2＋V（＋N3））が用いられている下線部②から⑪と⑬，⑭の12箇所において重要なことは，その動作行為が「誰のためである」とか，「受益者である」とか，「受領者である」とか，「処置行為である」とか，そのようなことではない。重要なことは，1Lから6Mにおいては，LとLの所属先である中国の専門学校の両者の間で，そして7Lから21Lにおいては，Mの夫とMの夫の所属先である中国の大学の両者の間で，それぞれ何らかの授受関係があったことによってその事柄が起きていることを明示することである。もしその動作行為が「誰のためである」とか，「受益者である」とか，「受領者である」とか，「処置行為である」とか，そういうことを明示することが重要であり，それを明確に聞き手に伝えようとする必要があるのであれば，“为”や“替”や“把”を用いて言明すればよいのである。この形式が二義性を否定できないことは先の2.2で述べた通りであり，二義性を否定できない表

現形式を敢えて用いて“为”や“替”や“把”に代替させる意味はない。

もう1つ，従来の見解では「“给”≒“被”」と解釈される例を見ていくことにする。

下記の例(6)では，FとHが，外国に留学している中国人留学生が中国でどのように認識されているのかについて話し合っている。

例(6)

1H＝我听说他们上海人：回国一趟的话丨，至少要花100多万丨。上海人说丨，你送我一个手表丨，送我一个金戒指丨，(这个)在你来说，不过就干一，两天的活儿丨，〔F＝对〕轻松得很丨。我弟弟回家呀丨，他以前的教他们的有一个老师是上海人丨，他请他上海老师：吃一顿饭丨，吃完了丨，哦丨，“你请我们吃一顿饭根本：什么也不费嘛丨，一个小时你就赚回来了，是不是？丨”

2F＝其实他们太不象话丨。

3H＝怎么乱七八糟的丨。

4F＝你说对不对呀？丨

5H＝象这样的人啊，还这么多丨。你说(这个)：要说的：要说的（这个）民主啦丨、自由啦丨、人权啦，这些问题〔F＝简直是其实是……〕我想还没到那种地步丨。〔F＝对〕不过人权这个是丨，我说：先搞民主丨，自由象在(这个)：不如先提倡(这个)人权丨。就是说丨，做一个人丨，有什么样的权利丨。〔F＝对〕唉丨。

6F＝不过你说这个哈丨，〔H＝嗯〕它不光是上海的事儿丨，各个地方：都有这种情：绪。〔H＝是吗？〕但是，就是上海表现得比较就是说严重一点儿罢了丨。〔H＝嗯〕哈。就是说这人太不象话丨。〔H＝嗯〕他对这帮人儿在外边辛辛苦苦哈丨，〔H＝嗯〕要想还得学习丨，〔H＝嗯〕还得生活丨，〔H＝嗯〕就是这些东西根本没有任何理解丨，他总觉得在外边儿都是花天酒地丨。〔H＝唉〕唉丨。

7H＝这个也许：咱们国内以前的（这个）宣传哪丨，〔F＝一个是哪……〕国外的资本主义花天酒地，哦，这都是（那个）……

8F＝这是一方面：一个是国内宣传，第二个还有一个问题就是说丨，〔H＝嗯〕上海人既然说：请一顿客：对你来说，那么容易的话丨，〔H＝嗯〕下次就不应该请他丨。可是这帮人儿呢，又……

9H＝上海人你不请他，〔F＝啊〕他又要说了丨。

10F＝既然请他也说，不请也说，〔H＝不请也说〕那就不请呗丨。

11H＝你不请他也说丨。

12F＝对呀。问题在这儿呢丨。

13H＝大概：大概上海人就做不到这一点丨。

14F＝对呀丨，上海人呢丨，爱虚荣丨，很多事儿让上海人弄坏了丨。〔H＝爱虚荣〕你觉不觉得？丨

15H＝对丨。可能是（这个）留学生很多事都给他搞坏了丨。

1H＝上海出身の留学生は1回帰国すると少なくとも100万以上使うらしいよ。上海人は「お前が私に腕時計や金の指輪をプレゼントしても，おまえは1日か2日働けば〔F＝そう〕済むことだ」と言う。私の弟が帰国して家に帰ってきた時，以前彼らに教えた先生が上海人だったんだけど，その上海人の先生に1度ごちそうして，食べ終わった時に，その先生は「お前が我々に食事を1回ごちそうしたって，大したことじゃないさ，1時間で稼げるんだから，そうだろ？」と言ったそうだ。

2F＝本当に話にならない。

3H＝無茶苦茶だ。

4F＝そうでしょ？

5H＝こういう人はたくさんいるよ。民主だ，自由だ，人権だと言ったって，こういう問

題は｛F＝全く実際……｝まだそんなレベルまでいってないと思う。｛F＝その通りだ｝ただ人権は，民主や自由よりまず先に人権を提唱した方がいい。つまり一人の人間にどういう人権があるのかということだ。｛F＝その通りだ｝うん。

6F＝しかしこういう状況は，｛H＝うん｝ただ上海に限ったことではなくて，各地にこういう感覚がある。｛H＝そう？｝でも，上海がちょっとひどいというだけのことさ。｛H＝うん｝ただこの人は全くお話にならない。｛H＝うん｝つまりこの人はお話にならない。｛H＝うん｝外で苦労して，｛H＝うん｝勉強しなくちゃいけないし，｛H＝うん｝生活しなくちゃいけないこういう人たちのことを，彼は全く理解していなくて，結局外国は酒色におぼれた生活をしていると思っているんだ。｛H＝うん｝うん。

7H＝これは多分，以前の国内での宣伝は外国の資本主義は酒色におぼれた生活だと……

8F＝それは１つで，１つは国内の宣伝で，やはりもう１つ問題があってそれはつまり，｛H＝うん｝上海人は１度ごちそうした以上は，あなたにとってそんなに簡単なら，｛H＝うん｝，次にはごちそうしてはいけないということだ。しかしこういう人たちはまた……

9H＝上海人はごちそうしないと｛F＝ああ｝また悪く言う。

10F＝ごちそうしても言われ，ごちそうしなくても言われる。それならごちそうしないよ。

11H＝ごちそうしなくても言われる。

12F＝そうさ。問題はここにある。

13H＝多分上海人にはそれができない。

14F＝そうさ。上海人は虚栄心があり，多くのことは上海人にぶち壊されたんだ。｛H＝虚栄心｝そう思わないか？

15H＝その通り。多分，留学生の多くのことは上海人が台無しにしたんだ。

ここでは，外国に留学した中国人留学生は留学先で簡単にお金儲けができ，ふんだんにお金を使うことができるというふうに，中国国内においては上海人留学生によって印象付けられた，という内容の会話がなされている。この談話の中で重要なポイントは一般の中国人留学生と上海出身の留学生との相違である。

例(6)では 15H の“留学生很多事都给他搞坏了”で前置詞の“给”が用いられている。これは従来の見解では“被”と類似の機能を果たすとされている“给”である。しかしその前の 14F において“很多事儿让上海人弄坏了”というように，すでに受け身を表す“让”を用いて表現されており，それによって明確に受け身の意味が言明されている。従って，“15H において“给”を用いて表現することの重要性は「受け身」であることをもう一度くりかえして表現することではなく，そのことが一般の中国人留学生と上海出身の留学生との間の授受関係によって引き起こされたということを表現することである。

以上見てきたように，現代中国語の‘普通话’において前置詞の“给”は，“给”という動詞本来が持っていた「与える方向性」が欠落し，二者間で何らかの授受関係があったことのみを意味する機能語として用いられているということができる。

３．副詞の“给”＝N1＋给＋V（＋N2）

3.1　従来の分類

動詞に前置する“给”については，『现代汉语八百词（增订本）』(p. 227) では‘助词’とされている。そしてこの著書の最初の説明部分の

‘词类’の箇所には，‘助词’として⑴‘动态助词’，⑵‘结构助词’，⑶‘语气助词’の3類が挙げられている（p. 19～20）が，動詞に前置する“给”はこれらのうちのどれにも当てはまらない。

また『实用现代汉语语法（增订本）』（p. 292～294）では‘介词’とされ，「2．引进动作行为的服务对象」の項目の中で，「有时“给”的宾语不出现，而且有时很难补出确切的宾语。」として，下記の3例が挙げられている（p. 293～294）。

① 黄大姐每天给接电话，给找人，从早忙到晚。

② 劳驾，给拿快肥皂。

③ 顾八奶奶：对了，劳驾您，四爷，你给倒杯水。

そしてこれに続いて「3．引出动作行为的施事，与“被”的意思相同，也可以用“被”字替换。为南方口语。」の項目の中では，「有时，“给”后没有宾语，也很难补出来。」として，下記の3例が挙げられている（p. 294）。

① 这些纸都给放黄了。

② 大白菜给冻了。

③ 圆珠笔给搁干了。

動詞に前置する“给”は“给”の後ろに目的語を補足することができないにもかかわらず，なぜこれらを‘介词’とすることができるのであろうか。

『现代汉语八百词（增订本）』においても，『实用现代汉语语法（增订本）』においても，動詞に前置する“给”の扱いは極めていい粗略であると言わざるを得ない。

以下で，本稿における言語資料による分析を進めていく。

3.2　言語資料による分析

下記の例⑺では，東北人であるKの弟が上海人に罵られた時の様子について話されている。

例⑺

1K＝我跟你说，我弟弟上（那个）在上海去上学。在火车上，他不小心碰着人家脚了啊哈丨。他：他用（那个）普通话说，人家一看他：东北人啊，更来气了，就哒哒哒，他说一直骂他啊。就是说我弟弟啊，就是一直说到下车丨，就一个劲说我弟弟。我弟弟说一句也听不懂上海话，他就说吧，把他气得就是：说我弟弟没法道歉。

2J＝听不懂就算了听不懂就算了丨，听不懂，要我：要我听不懂，我就看着他，我觉得还挺好玩的呢丨。

3K＝然后，他说（那个）上海人吧哈丨，嗯：在车上吵架，你就看：那鼻子都对鼻子哈丨，那哒哒哒。他说要东北人早就两拳给打一边去了丨。

1K＝私の弟は上海の大学に通っていたんだけど，彼は汽車に乗っていた時，不注意で上海の人にぶつかって足を踏んじゃったの。彼は共通語で話したんだけど，その人は彼を見て東北人だとわかってすごく怒って，何かワーワーと言って彼を罵ったの。つまり私の弟を罵って，汽車を降りるまで，ひどく弟を罵ったの。私の弟は一言も上海語が分からないし，頭にきて，謝ることができなかったと言っていた。

2J＝上海語が分からないなら仕方がないよ，分からないんだもの。もし私だったら，その上海人を見て，おもしろがったと思う。

3K＝それから，彼が言うには，あの上海人はね，汽車の中で口げんかするときには鼻を相手の鼻に突き付けて何かワーワーと言ったけど，東北人だったらとっくに相手に拳骨を二発くらわせて遠くにすっ飛ばしてるって。

例⑺の中では3Kにおいて「N1＋给＋V（＋

N2)」の形式が用いられている。この“要东北人早就两拳给打一边去了。”の“给”は，無くても文としては成立する。しかしその場合には，「もし東北人同士だったら拳骨で二発殴る」という客観的事実が表現されるだけである。ここでは，“给”が動詞の前に用いられることによって，「殴る」という動作行為が「与える」行為であるというニュアンスが加えられ，それによって話し手の「東北人同士の場合には，拳骨を二発くらわせて殴ってやる」というような話し手の心情が加えられることになる。

もう１つ，同様の例を見ていく。

次の例(8)では日本で日本人に中国語を教えるときの授業の準備について話し合っている。

例(8)

1R ＝但是我觉得：你老教（那个）就是说：中文的时候〔Q＝嗯〕那就是说还是：尽量少用日语｜。

2Q ＝对对对｜。所以我有时候讲呢，所以他｜，后来他开玩笑｜，不用日语，我正好，我反正也不会说日语，哈哈哈……要我说也不会说｜，正好不会说，反正也不要说｜。但是：但是学生他有时候，比如说问你，怎么翻译这个词哈｜，〔R＝对〕什么意思，你得：〔R＝嗯〕比如说要给他解释出来①，比如说｜，〔R＝对对对对〕你解释了半天，他问的是：就是说：汉语这个词，在日语里面是什么意思，你得：在那个时候，你得要说日语吧｜，〔R＝对〕是不是？｜〔R＝没错〕就是（那个）挺：挺难的。不过个这班，我上下来吧，我也才去年十月份才开始上的｜。〔R＝噢，是吗？〕嗯，所以：才上半年｜。

3R ＝啊，那一样的｜。

4Q ＝你也是去年十月开始的｜。

5R ＝对对对对对｜。

6Q ＝啊，是吗？｜

7R ＝嗯｜。

8Q ＝所以我：就是：上下来，还觉得就是对自己还是挺有提高的。我上中级嘛｜，〔R＝啊〕它那个｜，我得每次都：不备课，我都不能去呀。这个……〔R＝没错，因为我觉得……〕是不是？｜〔R＝对〕不备课的话，他：我那上的话，全都是：我自己有时看看那个中文，不太想看的那些，比如报纸上的〔R＝啊〕大丰收哇｜，农村什么、农村承包、改革那种文章｜，你说我平时不看｜。

9R ＝对｜，也不看｜，对｜。但是如果要是上课的话，你怎么也要准备查字典什么之类的哈｜。

10Q ＝对对对，我每次都得：就是：把它全都备：备课哈｜。〔R＝对〕然后呢：单词全得给查出来②｜。〔R＝没错〕你日语：〔R＝我也是〕不讲，是不讲｜，但是比如说哈｜，他问起来这个意思是什么｜。

11R ＝对｜。万一就是问起来的话，〔Q＝对对对〕回答不出来｜。

1R＝でもいつも中国語を教えるとき〔Q＝うん〕できるだけ日本語を少なくする。

2Q＝そうそう。だから私がしゃべる時，あとで受講生が冗談で言ったんだけど，私が日本語を使わないのはちょうど都合がいいって。どっちにしても私は日本語ができないハハハ……私に日本語を話させても話せないから，できない方が都合がいいし，どっちみち（授業中は私は日本語を）話してはいけない。でも，受講生は例えば，これはどう訳しますか？　とか，〔R＝そう〕どういう意味ですか？　とか質問して，例えばもしその受講生に説明する必要がある①なら，〔R＝そうそうそう〕中国語で長い時間説明しても，受講生がこの中国語は日本語ではどういう意味です

か？と質問したら，その時は日本語で話さなくてはいけないでしょ。{R＝そう}ね？ {R＝その通り} それはとても難しい。でもこのクラスを担当してね，私も去年の10月から担当し始めたところなの。 {R＝へー，そうなの？} うん，だからまだ半年。

3R＝それじゃ一緒だ。

4Q＝Rさんも去年の10月からなの？

5R＝そうそうそう。

6Q＝ああ，そうなの？

7R＝うん。

8Q＝だから私は，授業を担当して自分にプラスになると感じているの。中級クラスを担当してね，{R＝うん} 私は毎回授業の準備をしないと行くことができないの。あのー {R＝その通り，なぜなら……} そうでしょ。授業の予習をしていないとね，授業の内容は，全部，私はその中国語のテキストを読んでみたけど，例えば新聞の中の大豊作とか，農村がどうとか，農村請負人とか，改革の文章とか，私は普段は読まないものばかりなの。

9R＝そう，私も読まない。でももし授業するなら，どうしても字典を引いたりして準備しなくちゃいけない。

10Q＝そうそう，私は毎回全部授業の予習をするよ。{R＝そう} それから，単語は全部ちゃんと調べておかなくちゃいけない②。{R＝その通り} 日本語は話さないけど，例えば受講生はこれはどういう意味かと質問してくる。

11R＝そう。万一質問されたら，{Q＝そうそうそう} 答えられない。

例(8)では，下線部①と②の2箇所での“给”が用いられている。下線部①は前置詞の“给”であり，先の2.3の例であるので，ここでは分析をくりかえさない。ここでは下線部②について分析していく。

例(8)ではPとQの日本における中国語教師体験について会話されている。特にQは日本語を得意とせず，中国語の授業を行う際にはほとんど日本語を使用しないということを述べている。しかし，日本人受講生の質問に対する説明は日本語で求められるため，授業内容については前もって全部きちんと日本語で説明できるように調べておく，と述べている。この下線部②の“单词全得给查出来”においても“给”は無くても文としては成立する。しかしその場合は，先の例(7)と同様に，「単語は全部調べなくてはいけない」というような客観的事実を述べるにすぎない表現となる。ここでは“给”を用いたことにより，「調べる」というのが「与える」行為であるというニュアンスが加えられ，それによって「ちゃんと調べておく」というような話し手の心情が加えられることになる。

例(7)と例(8)は動詞に“给”が前置されることによって，その動作行為を「与える」という意味が付与された例である。

以下では，“给”が動詞の前に置かれることによって，その動作行為を「受ける」という意味が付与されている例を見ていく。

下記の例は，先の2.3における例(5)の一部であり，下線①が動詞に前置する“给”の例である。ここでもう一度その部分を抜粋する。

例(5)

1L＝我们学校主要是，你想中专吧，派出来的人挺少的，第一个派我出来丨。我是刚到单位工作吧丨，{M＝嗯} 工：分到单位之后半年吧，我没有教课丨。你那一开始不带课不教课的丨。{M＝嗯} 啊丨。完了，刚教了半年吧，我就：结婚，就有小孩儿了丨。{M＝哦} 问题是一有小孩儿，就不让我教课，让我歇着啦丨。{M＝哦} 完了，生完小孩儿，

我该上班了，就考（这个）出国留学考试，就给考上了①｜。

1L＝私たちの学校は，中等専科学校（中国で中学を卒業してから進学する専門学校）はね，派遣する人はとても少なくて，初めて私を派遣したの。私は就職したばかりの時，｛M＝うん｝就職して半年間，私は授業を担当しなかったの。就職して最初から授業を担当しなかった。｛M＝うん｝教え始めて半年してね，結婚して子どもができたの。｛M＝へえ｝問題は子どもができたら，私に授業をさせず，私を休ませたの。｛M＝へえ｝それから子どもが生まれたら，私は出勤しなければならないから，それで留学試験を受けたら，受かっちゃったの①。

例(5)の下線部①の“就给考上了”は“给”が無くても文としては成立する。しかしその場合は，単に客観的事実として「留学生試験に合格した」ということを表現するだけである。

すでに2.3において詳述したように，例(5)の談話の展開において重要なポイントとなっているのは，LとLの所属先である中国の専門学校との関係である。従って，下線部①の“给”が表現しているのは，LとLの所属先の専門学校との間で留学生試験に合格するという授受関係があったということであり，Lが所属先の専門学校から「留学生試験合格」を「受けた」ということである。もしこの“给”が無ければ，上述したようにその表現はただ単に「留学生試験に合格した」という客観的事実を述べているに過ぎない。しかし，チャンスの少ない「留学生試験合格」はLにとっては喜ばしいことであり，ここでは“给”がVに前置されることによって，「留学生試験合格」を「受けた」ということに対するLの「意外性」や「自慢」，「ラッキーだ」という心情が表出されている。

さらに同様の例を見ていく。

次の例(9)ではSの夫が仕事で上海に帰り，その際にパスポートを盗まれた時のことについて話し合われている。

例(9)

1S＝……所以还得：完了：我：我妈：我：我妈、我爸赶紧给他找关系①，托人哈，完了就去申请｜。｛J＝嗯｝申请吧，还得登报纸｜。｛J＝嗯嗯嗯｝登报纸吧｜，那个报纸呢，还得一个星：每星期三才出｜。｛J＝噢｝完了，那拨儿赶不上了，完了赶：赶上个星期｛J＝下一拨儿，噢噢｝嗯，赶上星期三｜。

2J＝声明作废哈｜。

3S＝对，声明作废｜。声明作废，完了以后｜，完了呢｜，特别巧的是什么，声明作废以后，还要等二十天才行｜，｛J＝嗯嗯｝然后：声完，星期三登完报纸以后，｛J＝嗯｝完了他那护照又给寄回来了②。哈哈哈……就说吧，那人偷完以后，给扔在垃圾箱里了③｜。

4J＝啊，然后有人捡到了｜。

5S＝然后，有人捡了。捡了以后邮局的人还挺好的，｛J＝噢｝就是找他地址哈｜。｛J＝嗯嗯嗯｝完了给寄回来了④｜，可以已经晚了｜。｛J＝啊，真是的哈｝如果在星期三：之前就好了｜，｛J＝啊｝就可以用了｜。结果这已经不能用了，还是：还得等好多天｜。｛J＝也真讨厌｝你说，这事儿｜。

6J＝唉，他们公司也没有办法哈？｜

7S＝他们公司：这他们公司不错｜，就那签证啊｜，｛J＝嗯｝签证他们公司给出的证明⑤｜。｛J＝啊｝就说如果是你：不是：没有：没有（那个）公司的话｜，｛J＝嗯嗯｝一个人，比如留学生吧｜，｛J＝啊｝（那个）大使馆，根本不接待你｜，｛J＝噢｝不管｜。

8J＝噢，是吗？

1S＝だからそれで，私の両親が彼のために急いで伝手を探して①，人に頼んで，それから申請したの。{J＝うん} 申請するにはね，新聞に載せなきゃいけない，{J＝うんうんうん} 新聞に載せるのはね，その新聞はね，毎週水曜日にしか出ない。{J＝へー} それでは間に合わない，それで先週のに {J＝次のやつ，うん} うん，先週の水曜日に間に合ったの。

2J＝破棄すると表明する。

3S＝そう，破棄すると表明する。破棄すると表明して，それから，それで，破棄を表明して20日後に施行されるんだけど，{J＝うんうん} 破棄の表明後，水曜日に新聞に載ったら，{J＝うん} ちょうど彼のパスポートが郵送されてきたの②ハハハ……つまり誰かが盗んだ後，ゴミ箱に捨てられちゃったの③。

4J＝ああ，その後誰かが拾った。

5S＝その後誰かが拾ったの。拾ってから郵便局の人がとてもいい人で，{J＝へー} 彼の住所を探したの。{J＝うんうんうん} それで郵送してくれた④けど，もう遅かった。{J＝ああ，そうなの} もし水曜日の前だったらよかった，{J＝ああ} それなら使うことができた。結局それはもう使えなくなって，さらに数日待たなくちゃいけなかったの。{J＝本当に面倒だね} こんなことがあったの。

6J＝ねえ，彼の会社もどうしようもなかったの？

7S＝彼の会社，この会社はとても良くて，そのパスポートは {J＝うん} 彼の会社が（ビザの）証明をだしてくれたの⑤。{J＝ああ} もし会社じゃなくて {J＝うんうん} 例えば留学生だったら，{J＝ああ} 大使館は {J＝ああ} 全く相手をしてくれない，{J＝へー} 相手にしてくれない。

8J＝へー，そうなの？

例(9)の下線部①は2.3において詳述した前置詞の“给”と同じであるので，ここでは解説をくり返さない。

例(9)では下線部②から⑤の4箇所において「给＋V」の表現が用いられている。これらの例の中の“给”も例(7)の3Kの下線部の“给”や例(8)の下線部②の“给”および例(5)の下線部①の“给”と同様に，無くても文としては成立する。しかしその場合，例えば下線部②と④は「郵便局員がパスポートを郵送してそれが戻ってきた」，下線部③は「パスポートを盗んだ後，（盗んだ人が）パスポートをゴミ箱に捨てた」，下線部⑤は「彼の会社がビザの証明を出した」というように，それらは単なる客観的事実を表現しているに過ぎない。

ではこの4箇所の動詞の前の“给”は何を意味しているのであろうか。それはSがそれらの出来事を単に客観的事実として捉えているのではなく，Sの夫のパスポート（＝パスポートの持ち主であるSの夫とS自身）と，それに関わった人間や組織との関係の中で，それらの出来事をとらえているということを意味している。より明確に言えば，Sの夫のパスポート（＝パスポートの持ち主であるSの夫とS自身）が，それらの出来事に関わった人間や組織から動作行為を「受ける」という関係があったことが表明されている，ということである。そしてそれによってその動作行為を「受ける」ことで生み出されたSやSの夫の感情が表出されることになり，例えば下線部②と④は「戻ってくると思っていなかったパスポートが郵送されてきたこと（＝受けた行為）に対する意外な気持ち」，③は「パスポートがゴミ箱に捨てられてしまったこと（＝受けた行為）に対する驚きの感情」，⑤は「彼の会社がビザの証明を出してくれたこと（＝受けた行為）に対する感謝の気持ち」

などの，話し手の心情が表出されている。

もう１つ「给＋V」の例を見ていく。ここでは中国国内の物価上昇について話されている。

例⑽

D＝我临出来赶上一阵儿什么呢｜，｛E＝哦｝不是最近中央在北戴河：（那什么）：地方开会｜，｛E＝哦｝你看报没看报？｜｛E＝哦｝（那个）：讲什么改革：工资改革什么的｜。｛E＝哦｝就听他们：谣传｜，有的说嘛，明年啊｜，｛E＝嗯｝工资给涨百分之七十①｜，｛E＝嗯｝｜每个人都给涨七十②。那么物价呢｜，涨：一倍｜，百分之一百｜。｛E＝嗯｝据说有这个谣传｜，｛E＝嗯｝紧接呢｜，随着这个谣传｜，没有多久马上又出来一个｜，今年九月一号以后｜，所有的东西都要涨价｜。｛E＝哦｝不光是天津啊｜，全国的｜。你还不知道这谣传｜。

D＝（中国に一時帰国して）日本に帰る直前に僕がどういう出来事に出くわしたかというと，｛E＝ああ｝最近中央政府は北戴河で会議を開いたじゃないか，｛E＝ああ｝新聞を見た？｛E＝ああ｝何か改革，給与改革とか話している。｛E＝ああ｝デマが飛んでいるらしくて，来年，｛E＝うん｝給与を７割アップしてくれる①，｛E＝うん｝一人一人全員７割アップしてくれる②そうだ。それじゃあ物価はというと，倍になる。｛E＝うん｝こういううわさがあると聞いた，｛E＝うん｝続いて，このうわさによると，もうじき，今年の９月１日以降には，すべてのものが値上がりするらしい。｛E＝ああ｝天津だけじゃなくて，全国だ。このうわさを知らないのか？

例⑽では下線部①と②において「给＋V」の表現が用いられている。下線部①も②も“给”が無くても文としては成立する。しかしその場合，①は「給料が７割アップする」，②は「（給料が）一人一人７割アップする」という客観的事実が表現されるだけである。ここでは下線部①と②では動詞“涨”に“给”が前置されることによって，「国民が国家による給料アップを受けた」ということが表わされ，それによって国家の対応に対してＤが「意外である」と感じている心情が表出されている。そしてこの下線部①と②に続いて，“那么物价呢，涨一倍，百分之一百。”（それじゃあ物価はというと，倍になる）と発言されており，この一連の発話においては，この下線部①と②の“给涨”の“给”が表現されていることによって，「意外にも，せっかく国家が給料をアップしてくれたって，物価の方がさらに値上がりし，給料はそれにおいつかない」というＤの心情が表出されることになる。

以上の例からわかることは，まず「给＋V」の表現は，“给”が無くても文としては成立するが，その場合には，それは単なる客観的事実の表現に過ぎないということである。しかし“给”が動詞に前置されることによって，「Ｖを与えた」あるいは「Ｖを受けた」ということが言明され，そのことによって，その動作行為に対する話し手のさまざまな心情が表出されることとなる。つまり「N1＋给＋V（＋N2）」という形式における“给”は，単にその動作行為の授受関係を述べるために用いられているのではなく，話し手のさまざまなモダリティーを表出するために用いられている表現なのである。

さらに下記の例⑾と⑿によって，「给＋V」の表現における“给”のモダリティー性を見ていくことにする。

例⑾ではＰが中国に一時帰国したときのことが話され，例⑿ではＭが自分の夫の性格や生活ぶりを語っている。

例⑾

1D ＝啊：你是什么：什么时候儿回北京？｜

2P ＝十二月底呀｜。十二月：嗳，几号来着，我怎么就给忘了｜。十二月：啊：啊，十二月二十三号｜。我想起来了｜。十二月二十三号回去，然后一月十号回来的｜。正好（那个）元旦是在：在家里过的｜。

1D＝いつ北京に帰ったの？

2P＝12月末よ。12月，えっと何日だったっけ，どうして忘れちゃったんだろう。12月んー12月23日。思い出した。12月23日に帰国して，それから1月10日に（日本に）戻ってきたの。ちょうど元旦は家で過ごしたの。

例⑿

M ＝他怎么说呢，他这个人是属于什么型的呢哈｜，啊！｜他喜欢买书｜。{L＝嗯}我们书架上那两：那：那么大的书架吧，两个书架，那书全满了，排了两排还｜。{L＝嗯}他买了多少书！｜{L＝嗯}他！喜欢看书，{L＝他）他。就是他买的文化论方面的那种书，还特别贵，{L＝对对对}每本都一千二千的｜，他喜欢都买那个｜。{L＝嗯}而且他生活上不拘小节：比如说什么呢，不：不守时间｜，{L＝哈哈哈……}和人家约好什么什么时间吧哈｜，{L＝嗯}他到时候，‘啊忘了！’｜{L＝哈哈哈……}他经常干这样的事｜。去年我听说中国语讲习会，他课给忘了一次，是吧？｜{L＝对对对，我听说了}完了说什么呢，早上不起床｜。上课时间吧｜，啊，起不来床，就不起｜，是那种人｜。{L＝哈哈哈……}

M ＝彼は何というか，彼はどういう人かというとね，彼は本を買うのが好きなの。{L＝うん}私たちの書棚には，大きな書棚はね，2つの書棚は本で一杯で，2列に並べてあるの。{L＝うん}彼はたくさん本を買った！{L＝うん}彼は本を読むのが好きなの。{L＝うん}彼の買う文化論関係の本はとても高くて，{L＝そうそうそう}1冊千円とか2千円なんだけど，彼はいつもこういう本を買うの。{L＝うん}そして彼は生活の上で小さいことに拘らない，例えばね，時間を守らない，{L＝ハハハ……}人と時間を約束するでしょ，{L＝うん}時間になると，「あっ忘れた！」{L＝ハハハ……}彼はいつもこうなの。去年中国語の講習会で，1回授業を忘れちゃったと聞いたけど，そうでしょ？{L＝そうそうそう，私も聞いたよ}朝起きないの。授業の時間にね，起きられないから起きないという，こういう人なの。{L＝ハハハ……}

例⑾の2Pの下線部の発話は“我怎么就给忘了。”，例⑿のMの下線部の発話は“他课给忘了一次。”で，どちらも“给忘了”という表現である。この2例においても“给”は無くても文としては成立する。そして“给”が無ければ，例⑾は「どうして自分の帰国した日にちを忘れたのか」という単なる疑問を，そして例⑿は「彼は1回授業を忘れた」という単なる客観的事実を述べるだけの表現となる。しかし“给”を“忘”に前置することによって，2例とも話し手は「“忘”が他者から受けた動作行為である」ということを表明している。そして例⑾，例⑿の「给＋V」と，上記の例⑸の下線部①，例⑼の下線部②から⑤，例⑽の下線部①と②の「给＋V」との相違は，例⑾と例⑿の例においては動作行為の「与え手」が明確ではないということである。さらに言えばそれは「明確にしようがない与え手」であり，換言すれば上記の例⑸の下線部①，例⑼の下線部②から⑤，例⑽の下線部①と②とは違って，「与え手」との関係が問題には

ならないということである。つまり例⑾の 2P の下線部の発話である“我怎么就给忘了。”と例⑿の M の下線部の発話である“他课给忘了一次。”においては，“给”を“忘”に前置することによって，「忘れる」ということが「誰からか分からないがとにかく受けた行為である」ということを表明することによって，話し手の「信じられない」とか「意外だ」という感情が表出されることになる。

以上のことから，例⑺の 3K の下線部と例⑻の下線部②の「给＋V」は動作行為を「与える」方向であり，例⑸の下線部①と例⑼の下線部②から⑤，例⑽の下線部①と②，例⑾の 2P の下線部，例⑿の M の下線部の「给＋V」は動作行為を「受ける」方向であることがわかる。このことから「给＋V」の場合も，前置詞の“给”の場合と同様に，その動作行為の方向は両方向あることがわかり，どちらの方向であるのかは文脈あるいは談話の展開に依って決定されている。

このように，“给”が動詞の直前に使用された場合には，“给”は動作行為の授受関係があったことを言明するために表現されているというよりも，動作行為に対する話し手のさまざまな心情表現へと，その重心がシフトしている。これは“给”が文法化から，さらにモダリティー化していることの証拠であり，従って，動詞の直前に使用される“给”は「語気副詞」と言うことも可能である。

また，今回言語資料とした 10 時間分の自由会話資料において，「给＋V」の表現形式は 60 例あったが，その中で“给”と動詞の間に他の成分が入り込んだ例は 1 例も無かった。このことは，動詞の直前に使用される“给”を「語気副詞」とすることの傍証となる。

4.“给”の連用＝N1＋给＋N2＋给＋V

4.1 「“给”の連用」とは何か

“给”を用いた表現の中には，一文の中で前置詞の“给”と動詞に前置する“给”の両方が用いられる場合がある。本稿においてはこの表現形式を「“给”の連用」と呼ぶ。ここではこの表現形式について考察していく。

以下で，本稿における言語資料を分析していく。

4.2　言語資料による分析

下記の例⒀では，J と K が中華料理について話し合っている。

例⒀

1J ＝薄饼的话呢丨，做不出来，就是：饭店卖的那种的，饭店卖的那种，它是：也不知怎么把面和得特别特别稀吧。但是，又能够拿起来丨，往饼铛上那么一蹭：｛K＝对对对｝就是一张一蹭，就是一张丨。

2K ＝对！对！就象中国那煎饼，你知道吗？

3J ＝但是，它比煎饼要稍：厚点儿丨，｛K＝厚点儿｝有这种张力丨。（那个那个）后来我说，“我不会做丨，”给她给气坏了，她说，“你怎么不会做，你到底会做什么？丨”

1J＝薄餅はね，作れない。お店で売っているようなやつはどうやって小麦粉をこねて皮をすごく薄くするのか知らないでしょ。でも，底が浅くて平たい鍋に皮をのばして｛K＝そうそうそう｝一枚のばす。

2K＝そうそう！　中国のあの煎餅みたいにね，知ってるの？

3J＝でもそれは煎餅よりちょっと分厚くて｛K＝分厚い｝弾力がある。それから「私は作れない」って言ったら，彼女を怒らせちゃった，彼女は「どうして作れないの？

何がつくれるの？」って言ったの。

例⒀では，3J において前置詞の“给”と動詞に前置する“给”の両方が用いられている。そして，J が“我不会做”と言ったことが原因で“她（彼女）”に“气坏（怒る）”という感情を引き起こしたことを“给她给气坏了”と表現している。ここでの２つの“给”は両者ともその動作行為の方向が“她（彼女）”に向かっており，動作行為の方向，つまり「彼女に与える」という方向が二重に表現されている。

もう１つ，同様の形式の例を見ていくことにする。

下記の例⒁では，J が２年前に中国に一時帰国した際のタクシー運転手とのエピソードについて語っている。

例⒁

1J ＝我：我两年以前回去的时候，还有的就挺好，有的就不行。那种的，｛S＝就是｝嗯丨。然后一起回去老太太她特别逗丨。她那个人家一对她好一点儿吧，她就特感动那种的丨。｛S＝嗯嗯｝然后她就拼命地给人小费①｛S＝哼哼哼｝给我给看的②丨。我们最后一次我去送她去机场哈。｛S＝嗯｝然后要到（那个）嗯：首都宾馆：｛S＝嗯｝去，和另外一个日本人去汇合｛S＝嗯｝那种的哈丨。｛S＝嗯｝然后后来，那个司机真是不错。然后呢，｛S＝嗯｝从我们家：住的地方哈丨，｛S＝嗯｝我们家丨，我父母现在住在西郊，但是我们家东郊那边｛S＝嗯｝还有一：一套房子哈，｛S＝嗯｝我们住在那边丨。然后后来那个：地方挺窄的。然后那个司机停好看我们拿箱子挺沉的丨，哟，还帮我们拿箱子什么的，放进去。哎哟，特别好丨。然后后来，老太太就特别感动那种丨，“不行丨，这个人我觉他非常好。”她说，“我要给他小费③。”哈哈哈……｛S＝哈哈哈……｝然后我说，“你：你就适当地给点儿④，别给他太多⑤。”｛S＝嗯｝那种什么的哈丨。｛S＝嗯｝好这一下车丨，（那个）还挺好的首都宾馆，也不是什么大的那种：特别：大的宾馆，所以，还让在门口停一下那种的丨。｛S＝嗯｝然后那司机也停好下来，给我们把箱子又给搬下来⑥丨，｛S＝嗯｝哎哟，她特别激动丨，｛S＝嗯｝她那会儿中文还不太会，你知道吗？丨｛S＝嗯嗯｝然后后来，就丨，噌丨，掏出三十块钱，其实就十块钱丨，｛S＝嗯嗯｝掏出三十块钱给人家那种⑦丨，还一个劲冲人家丨，“不要找钱。”给我给笑的⑧。哈哈哈……｛S＝哈哈哈……｝然后笑嘻嘻的，好玩儿的，那种的。哈哈哈……｛S＝哈哈哈……｝“不要找钱。”给我给笑坏了⑨。哈哈哈……｛S＝哈哈哈……｝然后，那个司机挺好的｛S＝嗯｝那司机说，“哟丨，这不合适。”什么的哈丨。｛S＝嗯｝至少人家还说一句这话丨，｛S＝嗯｝她还说丨，“不要找钱，不要找钱。”丨｛S＝嗯｝后来人家说，“哟丨，那谢谢您了。”｛S＝嗯｝什么的那种哈。｛S＝嗯｝就是感觉特别好那种的。｛S＝对对｝有的就不行。后来我们在天坛那块儿就是：出天坛公园以后吧哈丨，也是：坐了一辆车，那车破的我跟你说丨，就整个一个恨不得半路。哈哈哈……｛S＝哈哈哈……｝就恨不得散了架，那种感觉丨。｛S＝咯噔，咯噔的｝唉丨。跑半截儿那车门儿开了，哈哈哈……｛S＝哈哈哈……｝给我和老太太给吓的⑩，你知道吗？老太太坐里边｛S＝嗯｝我坐外边，正好靠着车门儿。后来我们说丨，“师傅，你那车门儿开了丨，怎么拉也拉不上？丨｛S＝是吗？｝怎么关也关不上？丨”｛S＝嗯｝后来结果，那小伙子特逗丨，｛S＝嗯｝不是人：人也还挺好，｛S＝嗯｝就是车破破烂烂。哈哈哈……｛S＝哈哈哈……｝那种的丨。然后后来，最后他说的丨，一边开车，这手从窗子那儿伸出去

〔S＝我天〕说丨，“你撒手丨。”后来我们一撒手，他就赶紧‘咣’地一下，给拉上了⑪丨，〔S＝是吗？〕给我和老太太给笑的⑫丨。〔S＝是吗？〕后来老太太说的丨，“这车肯定经常中途出这事儿丨。”

2S ＝他都熟练了丨。

3J ＝对对丨。一看他那动作特熟练，那种的丨。

4S ＝特有自信那种丨，不用你们管丨。

5J ＝给我们给笑坏了⑬，回来她说，“哎呀，真是没想到中国来还：〔S＝嗯〕体验到这么一次这个什么：哈哈哈……坐车的……”

6S ＝挺逗的。

1J＝２年前に帰国したとき，いい運転手と悪い運転手がいたの。〔S＝そうよ〕うん。一緒に（タクシーで）帰った（日本人の）おばさんが特に面白かった。彼女は誰かによくされるとね，とても感動するタイプなの。〔S＝うんうん〕彼女は運転手に一生懸命チップをあげるの①。〔S＝うんうん〕見ていて面白かった②。私は空港まで彼女を送ったの。〔S＝うん〕それから首都賓館に行って〔S＝うん〕他の日本人と合流しようと思ったの。〔S＝うん〕それで，その運転手は本当に良かった。〔S＝うん〕私の住んでいるところは，私の家はね，私の両親は西の方に住んでいるけど，私の家は東の方で〔S＝うん〕，もう一軒家があって，そっちに住んでいるの。そっちは狭いの。その運転手は車を止めて，私たちが持っているカバンがとても重いと思って，私たちがカバンを持つのを手伝って家の中に入れてくれたの。特にいい運転手だった。それからそのおばさんとても感動して，「ダメよ，この人はとても素晴らしいから，チップをあげるわ③。」って言ったの。ハハハ……〔S＝ハハハ……〕それで私が「適当にあげて④，あげ過ぎではだめですよ⑤」って言ったの。〔S＝うん〕車を降りるとき，まあまあいい首都賓館はね，特に大きなホテルではないから，ホテルの玄関で車を止めてもらったの。〔S＝うん〕それからその運転手も車を止めて降りてきて，私たちのカバンを運んでくれたの⑥。〔S＝うん〕彼女はものすごく感動して，〔S＝うん〕彼女はそんなに中国語はできないんだけど，〔S＝うん〕30 元取り出して，本当は 10 元でいいのに，〔S＝うんうん〕30 元取り出してその運転手にあげて⑦，しきりにその運転手に「おつりは要らないわ」だって。大笑いしちゃった⑧ハハハ……〔S＝ハハハ……〕ニコニコしてね，おもしろい，ハハハ……〔S＝ハハハ……〕「おつりは要らないわ」だって。大笑いしちゃった⑨ハハハ……〔S＝ハハハ……〕それでその運転手にとってはとてもいい人だったから，〔S＝うん〕その運転手は「えっ，これは多過ぎです。」とか言ったの。〔S＝うん〕少なくともこういうことは言ったけど，〔S＝うん〕彼女はまた何度も「おつりは要らない，おつりは要らない」って言ったの。〔S＝うん〕それから，その運転手は「ありがとうございました。」って言ったの。〔S＝うん〕特にいいと感じた運転手ね。〔S＝そうそう〕ダメな運転手もいる。私たちは天壇公園，天壇公園を出てから，一台のタクシーに乗ったんだけど，その車は壊れていてね，途中でハハハ……〔S＝ハハハ……〕壊れちゃうんじゃないかという感じなの。〔S＝ガタガタ〕うん。走っている途中でドアが開いたの。ハハハ……〔S＝ハハハ……〕私とそれから同乗していたおばさんは本当にびっくりしたの⑩。おばさんは奥に座っていて，私はドアの方に座っていて，ちょうどドアに寄りかかっていたの。私たち

が「運転手さん，ドアが開いています。ドアを引っ張っても引っ張れないし，閉めようともっても閉まらないんだけど。」と言うと，その若い運転手は面白くて，｛S＝うん｝人は悪くないんだけど，とにかく車がボロボロなの。ハハハ……｛S＝ハハハ……｝それで最後にその運転手はね，車を運転しながら，窓から手を伸ばして｛S＝ああ｝こう言った「手を放して。」それで私たちが手を放すと，その運転手は急いで「ガン」とドアを閉めてくれて⑪，｛S＝そうなの？｝私とおばさんは大笑いしたの⑫。｛S＝そうなの？｝それからそのおばさんは「この車は途中でこんなことがよくあったに違いないわ」って言ったの。

2S＝その運転手はそういうことに慣れている。

3J＝そうそう。見れば慣れていると分かるの。

4S＝特に自信がある。心配しなくてもいい。

5J＝本当に笑わせてくれた⑬。戻ってから彼女は「ああ，本当に中国に来てまたこんな体験するなんて思ってもいなかったわ」って言ったの。ハハハ……

6S＝おもしろいわねえ。

例⒁の中では13箇所で“给”が使用されている。そのうち下線部①，③，④，⑤，⑦の“给”は動詞であり，また下線部⑪は先の3．で扱った，動詞に前置する「给＋V」であるので，ここではくり返して論じることはしない。さらに下線部⑥の“给”は“把”と連用されているので，本稿では扱わない。前置詞の“给”と動詞に前置する“给”が連用されているのは下線部②，⑧，⑨，⑩，⑫，⒀の6例であるので，例⒁についてはこの6例について分析していく。

例⒁では，Jが2年前に中国に一時帰国した際に，中国国内でタクシーに乗った時のエピソードが展開されている。

まず1Jにおいて，良いタクシー運転手に乗った時のエピソードが話され，Jと同乗していた日本人のおばさんの言動に対するJの心情が下線部②，⑧，⑨で表現されている。またこれに続いて，ダメな運転手について話され，このダメな運転手に対するJとJの同乗者である日本人のおばさんの2人の心情が下線部⑩，⑫，⒀で表現されている。

これらはすべて，Jあるいは同乗者の女性と，それぞれのタクシー運転手との間で起きた動作行為によって引き起こされた，JとJの同乗者の女性の心情を表現している。

例⒁のこの6箇所の「N1＋给＋N2＋给＋V」の表現形式の例は以下の通りである。

例⒁の例②＝给我给看的

例⑧＝给我给笑的

例⑨＝给我给笑坏了

例⑩＝给我和老太太给吓的

例⑫＝给我和老太太给笑的

例⒀＝给我们给笑坏了

ここでの2つの“给”は，両者ともにその動作行為の方向が運転手から“我”あるいは“我和老太太”の方向に向かっている。それはつまり「私あるいは私とおばさんが（運転手から）受ける」という動作行為の方向を二重に表現しているということである。

今回言語資料とした10時間分の自由会話資料の中で，本章で扱った前置詞の“给”と動詞に前置する“给”が連用された例は9例あった。先の3．で詳述した「给V」の場合にはVが目的語をとる場合があるが，本章で考察した“给”の連用形式は，本稿の10時間分の会話資料中の9例においては，「N1＋给＋N2＋给＋V」に限定され，「给V」の後ろに目的語が置かれた例は1つも無かった。この形式は例⒀のように，話し手が動作行為を「与える」場合もあり，また例⒁のように，話し手が動作行為を「受ける」場合もあるが，いずれにしても話し手の心情や感情表現に限定して用いられていると判断

してよい。

以上のように，前置詞の“给”と動詞に前置する“给”が連用された場合は，“给”はさらに一段とモダリティー化され，話し手の心情や感情表出の目的で使用される形式であるとみなすことができよう。

5．結果補語の“给”＝N1＋V 给＋N2（＋N3）

5.1　従来の分類

杉村 1994 においては，「V 给」は「複合動詞」と分類されている（p. 137～138）。そしてこの場合の“给”を「補助動詞」としている（p. 206）。しかし，この形式は「V 给」が自立して単独で用いられることはできず，「V 给」の後ろには必ずその目的語が必要である。従って本稿では，「V 给」は「複合動詞」との立場は取らず，『实用现代汉语语法（增订本）』（p. 638）と同様，「V 给」の“给”は「結果補語」として扱うこととする。

以下で，言語資料による分析を行う。

5.2　言語資料による分析

下記の例⒂は，D と H が，D が一時帰国したときの天津の状況について話し合っている。

例⒂

1D ＝还有：一段时间就是鸡蛋丨，｛H＝鸡蛋｝鸡蛋收不上来丨，市内鸡蛋很少丨。｛H＝噢｝实际：（那个）：郊区有很多（这个）养鸡场丨，农民也养｛H＝啊｝好多丨，有鸡蛋丨。

2H ＝他们以高价卖丨，被买走了丨。

3D ＝他卖到北京去比卖到天津要值钱丨。所以他就往别处卖，不往天津卖丨。哈哈哈……

4H ＝哎哟！丨不往天津卖行吗？那不属于：应该属于天津的吗？丨

5D ＝但是，它不已经：（这个）有相对的（这个）所谓的自主形式嘛丨，｛H＝啊｝我卖给你一点丨，但是，我大部分都卖到那边去丨。｛H＝噢｝所以有一段时间，特别有意思丨，天津的鸡蛋了丨，面了丨，全都往外流丨。｛H＝嗯｝

1D＝それから，ある時期，卵，｛H＝卵｝卵が手に入らない，市内に卵がとても少ない。｛H＝おお｝実際には郊外にたくさん養鶏場があって，農民もたくさん飼っていて，卵はあるんだ。

2H＝養鶏農民はそれを高い値段で売って，買われた。

3D＝農民は北京の方が天津で売るより値打ちがある。だから他のところに売って，天津では売らない。ハハハ……

4H＝へー！　天津で売らなくても大丈夫なの？　天津に管理されているんじゃないの？

5D＝でも，それは割合とやり方は自由だから，｛H＝ああ｝こっちに少し売って，でも大部分はあっちに売るんだ。｛H＝へー｝だからある時期，特に面白かったよ，天津の卵や麺は全部外に流れちゃった。｛H＝うん｝

5D の下線部の“我卖给你一点”は「あなたに少し売る」という意味だが，ここで“给”が用いられずに“我卖你一点”と表現すればそれは「あなたを売る」という意味になる。従ってここでは動詞に後置された“给”によって動作行為の方向が「N1→N2」であることが明確に指示されているということは明明白白である。

もう１つ，同様の形式の例を見ていく。

下記の例⒃は，J と M が会話を学ぶということについて話し合っている。

例⑯

1M ＝咱们在学校学的时候吧｜，｛J＝嗯｝就是很少有和日本人有｛J＝很少有这方面的｝会话的机会｜。所以呢，都是（那个）中国老师｜，日本老师也有。就是中国老师教的时候吧｜，因为他那个本身有局限性｜，｛J＝嗯｝而且（那个什么）他们说的时候吧｜，就是：文章语句｛J＝对对，没错｝就比较多｜，咱们学的课文也都是（那个）正式的文章｛J＝嗯｝或者是小说什么的｜。

2J ＝这方面确实（那个）：而且一般的咱们学校｛M＝嗯｝比如说，老师教给咱们日语｜，｛M＝嗯｝你比如说，同样的一个：一个词哈｜，｛M＝啊｝你：你用不同的声调来读的话｜，｛M＝啊｝你用不同的语音来读的话，它意思，表达的意思不一样哈｜。｛M＝对呀，嗯嗯｝就那种｜。嗯｜。

1M＝私たちが（中国の）学校で学んでいた時は，｛J＝うん｝日本人と会話するチャンスは少なかったの。｛J＝こういう機会は少ない｝だから，みんな中国人の先生で，日本人の先生もいたけど。中国人の先生が教えるときはね，先生自身に限界があるし，｛J＝うん｝彼らが話すときにはね，書き言葉｛J＝そうそう，その通り｝が割と多くて，私たちが学ぶ教科書も正式な文章か｛J＝うん｝あるいは小説だから。

2J＝確かにそう。それに一般の学校は｛M＝うん｝例えば，先生が私たちに日本語を教えてくれるとき，｛M＝うん｝例えば，同じ単語でも，｛M＝ああ｝違うイントネーションで読むと，｛M＝ああ｝違う音で読むと，意味が，表現の意味が違うでしょ。｛M＝そう，うんうん｝うん。

ここでは2Jの下線部で“老师教给咱们日语”と表現されている。もともと“教”は二重目的語をとる動詞であるため，2Jの下線部は“老师教咱们日语”という“给”の無い表現も成立する。しかしその場合には「先生が私たちに日本語を教える」という，単に客観的事実を述べるだけの表現となる。ここでは二重目的語をとる動詞に敢えて“给”を後置して“老师教给咱们日语”と表現することによって，その動作行為が「N1→N2」という方向に「与える」という意味が付与されている。そしてそのことによって「先生が自分たちに与える」→「先生が私たちに教えてくれる」というような話し手の心情が付加されることとなる。

杉村1994（p. 138）では，「V给」の表現について，次のような記述がなされている。

「〈動詞＋“给”〉の“给”には日本語の「やる」「あげる」「くれる」などがもつ，人の上下関係を示したり，感情的なニュアンスを伝えたりする役割は一切ありません。“给”は単に受領者・受益者を導いて，ものの一方から他方への移動を言うだけです。」

しかし上記の例⑯で見たように，もともと二重目的語をとる動詞に後置された“给”には「与える」という意味が付与され，そしてそれは話し手の心情的あるいは感情的なニュアンスを表出する役割を担っている。中国語は経済的な言語である。単に受領者・受益者を導くために，“给”を用いる必要のない動詞に敢えて“给”を後置させて表現するには，それなりの理由と役割があってしかるべきである。

このことから，「N1＋V给＋N2（＋N3）」の形式は，「N1＋V给＋N2」の場合には，動詞に後置する“给”はVの方向を「N1→N2」に限定する働きをしているが，動詞が二重目的語をとるものである場合（＝「N1＋V给＋N2＋N3」）には，動詞の後ろに“给”を表現することによって「与える」という意味が付与され，それによって話し手のさまざまなモダリティーが表出されることとなる，ということがわかる。

6．おわりに

以上，動詞以外の“给”について，ア．前置詞の“给”，イ．副詞の“给”，ウ．“给”の連用，エ．結果補語の“给”の4種類について考察した。その結果，現代中国語における動詞以外の“给”の機能については，以下のようにまとめることができる。

もともと動詞であった“给”は，現代中国語においては，文法化されることによって本来持っていた「与える方向性」を失い，それによって「二者間において授受関係があること」のみを意味することとなった。そして「授受関係」を表す意味を付与する目的で積極的に用いられるようになった結果，さらに話し手のさまざまな心情を表現するためのモダリティー表現としても使用されるようになった，と言うことができる。

注

(1) “给”は，池田1962においては〈給〉（gei）と表記され，平山2000においては「給」と表記されている。

(2) 本稿では「N1＋给＋V（＋N2）」の形式の“给”を副詞として扱う。これまでこの“给”は副詞に分類されてきていないが，本稿でこれを副詞とする理由については，3．において詳述する。

参考文献

池田武雄 1962「〈給〉（gei）の発生について」『中国語学』122

木村英樹 2012『中国語文法の意味とかたち』第9章「北京官話授与動詞“给”の文法化」白帝社

倉石武四郎 1981『ことばと思惟と社会（倉石武四郎著作集第一巻）』くろしお出版

佐々木勲人 1996「“被……给”と“把……给”―強調の“给”再考―」『中国語学』243

杉村博文 1994『中国語文法教室』大修館書店

平山久雄 2000「「給」の来源―「過与」説に寄せて」『中国語学』247

吕叔湘主编 1980『现代汉语八百词（增订本）』商务印书馆

刘月华・潘文娱・故铧 2001『实用现代汉语语法（增订本）』商务印书馆